

令和2年度 学校評価結果及び保護者アンケート結果

県立神戸特別支援学校

1 集約結果

領域	評価項目	実践目標(及び成果)	職員自己評価			保護者結果		
			元年度	令和2年度	元年度	令和2年度		
			評価	評価	A+B割合	評価	評価	A+B割合
(1) 対象 :①本校保護者(家庭数) 153名 ②本校職員 109名 (2) 期間 :①本校保護者対象 令和2年12月8日(火)～18日(金) ②本校職員対象 令和元年12月8日(火)～18日(金) (3) 調査方法:①本校保護者 評価項目を抽出したマークシート方式による回答。 ②本校職員 グループウェアのアンケート機能による電子入力による回答。 いずれも、“できている(4)” “ほぼできている(3)” “あまりできていない(2)” “できていない(1)”の四件法により実施した。 (4) 評価基準:”できている(4)”と”ほぼできている(3)”の占める割合が80%以上はA 80%未満60%以上はB 60%未満はC とした。			102	105	114	132		
			100%	96%	70%	86%		
I 学校経営	ア 家庭や地域との連携	1 保護者や地域住民が参画しやすい学校行事やPTA行事となるよう工夫する。	B	B	73%	A		
		2 家庭や地域の意見や要望を反映するなど、連携・協力して取り組む。		A	91%	B	B	69%
		3 学校ホームページや学校ブログを活用して、家庭や地域に最新情報を発信する。	B	A	91%	B	B	67%
	イ 知肢併置校としての整備推進	4 知肢併置校としての教育内容や教育環境についての協議や研修を行う。	C	B	70%			
		5 県・市教委、友生支援学校やあじさい学園などの諸学校と連携し課題に取り組む。	C	C	50%			
	ウ 進路指導体制の充実	6 卒業後の自立と社会参加をめざし、関係機関と連携して進路指導を行う。	B	A	89%	B	B	70%
		7 将来像を見据え、教員や保護者の進路意識を高める研修会を行う。	C	B	75%	B	B	70%
	エ 実践的指導力と専門性の向上	8 教育愛と使命感を持ち、特別支援教育の専門性を高める研修を行う。	B	A	85%			
		9 一人一人の目標と手立てを踏まえた指導案を作成し、授業力を向上させる。	A	A	82%			
	オ 危機管理体制の充実	10 障害の重度・重複化、多様化に対応して安全点検を行い、学習環境の改善を図る。	B	B	73%			
		11 危機管理マニュアルを活用し、状況に応じた行動ができるよう避難学習を実施する。	B	A	86%	A	A	83%
	カ 個人情報の保護	12 児童生徒の個人情報(名前や写真など)を適切に管理している。	A	A	95%			
○イ-5 新型コロナウイルス感染症予防対策として、中止または自粛となつことで連携の機会が少なかったことが原因であると考え。 ○職員自己評価において、昨年度から評価が上がった項目について ・イ-4、ウ-7、エ-8 それぞれ、研修に関する項目について、課題意識をもって取り組んだ職員が増えていると考える。 ○職員自己評価は上がっているが、保護者の結果と差異がある項目について ・ア-2 保護者との信頼関係や連携、情報共有に課題があると考える。 ・ア-3 毎日ブログを更新したり、適宜情報をアップロードしているが、閲覧の有無を確認するなど、要因を分析する必要があると考える。 ・ウ-6 個々の児童生徒に応じた進路指導について、十分な情報提供を行うなど、より一層の充実を図る。								
II 教育課程	キ 一貫教育の推進	13 小・中・高で児童生徒及び指導支援の情報を共有し、連続した指導を行う。	C	B	63%	B	B	73%
	ク 個別の教育支援計画の活用	14 児童生徒の将来像や伸ばしたい点など、一人一人の教育的ニーズに基づいて目標を設定し、地域資源を活用するなど適切な支援を実現する。	A	A	85%	A	A	87%
	ケ 個別の指導計画による指導の充実	15 個別の教育支援計画を踏まえて実態に応じた具体的な目標と手立てを定め、適切な指導や評価を行う。	A	A	93%	A	A	90%
	コ 指導方法や指導体制の工夫	16 各教科等における個別の目標に基づき、興味・関心、得意分野を生かすなど指導の手立てを工夫する。	A	A	90%			
		17 個別の目標や指導の手立てを共通理解し、指導者間の役割分担とチームワークで授業の充実を図る。	A	A	84%			
	サ 体験活動	18 教科等の学習と体験活動を関連づけることで意欲を引き出し学習効果を高める。	A	A	87%	A	A	87%
シ 集団活動	19 家庭生活や地域生活に結びついた体験活動で自立と社会参加への意欲と態度を養う。	B	A	82%	B	B	73%	
	20 豊かな人間関係を育むために、年齢や障害の違いを超えたより活発な集団活動を計画する。	B	B	78%	A	B	78%	
○小学部から高等部までの縦の連携において課題があると考える。個別の指導計画を活用するなど、引継ぎの充実と工夫が必要であると考え。 ○職員自己評価は上がっているが、保護者の結果と差異がある項目について ○サ-19 (保護者) 新型コロナウイルス感染症予防対策として、中止または自粛となつことで体験活動の機会が減ったことが原因であると考え。 ○指導に関しては、全体的に高評価である。しかし、常に学び続ける教員として、指導力の向上を目指す必要がある。								
III 課題教育	ス 人権教育の推進	21 児童生徒が社会で生き生きと暮らせるよう、命の大切さや思いやりの心、コミュニケーションの力、ルールやマナー等を育成する。	A	A	85%	A	A	84%
	セ 人権意識の向上	22 人権に配慮した指導(言葉遣いなど)やいじめ早期発見のチェックリストを定期的実施する。いじめを許さない学校をテーマとして、人権を意識した研修に取り組む。	A	A	82%			
	ソ 居住他校交流及び学校間交流の推進	23 年間計画を立てて育てたい力を明確にし、児童生徒同士の充実した活動になるようしっかり打ち合わせを行って実施する。	A	A	82%			
	タ 地域との交流	24 土曜なかよし活動(年2回)、神養まつり、交流鑑賞会等の参加を地域や近隣校に呼びかけ、継続的な交流で地域への啓発を図る。	B	C	52%	A		
	チ 食育の推進	25 教育活動全体において食育を推進し、食への関心を高め、家庭と連携して望ましい食習慣の確立を図る。	B	B	74%	A	B	78%
	ツ 校外支援の取組	26 地域の学校や保護者のニーズを把握し、教育相談や講師派遣、就学相談、進路相談等、地域のセンター的機能の充実を図る。	B	A	85%			
27 地域自立支援協議会等の関係機関と連携して講演会や進路セミナーを開催し、地域への理解啓発を推進する。		B	B	70%				
○タ-24 新型コロナウイルス感染症予防対策として、中止または自粛となつことが原因であると考え。 ソ-23 居住他校交流については、自粛となり実施できなかったが、近隣校との交流などをとおして地域への意識を高める学習を進めた結果であると考え。 ○その他、学級経営の中で児童生徒の実態に応じた関係性の構築などを進めようとする意識の表れであると考え。								
IV コロナ対策	テ 健康管理	28 児童生徒の体調の変化等の観察に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する。		A	93%		A	92%
	ト 学習保障	29 臨時休業・分散登校等において、学習動画の配信や紙教材等による家庭学習の支援を行うなど、学習指導の充実を図る。		A	95%		B	77%
○テ-28 消毒や換気等の徹底、検温などの健康管理については、職員全体で共通理解・共通実践ができた。 ○ト-29 家庭学習における動画の配信については各家庭の通信環境により十分とはいえないが、引き続き、必要に応じて教材の準備を行い、適宜対応できるように進めていきたい。								

2 保護者アンケートより

- コロナ禍においても、必要な活動を工夫し、適切に行って欲しい。
- 今後も感染防止を最優先として、本校で決してクラスターを発生させない、絶対に子どもを守り抜く、という決意を持って、教育活動に取り組んでほしい。
- 個性の伸長を図る教育を望む。
- 小・中・高での連携をし、また家族、学校、地域が一つになれるようて情報を共有してほしい。

3 評価結果をふまえた今後の改善方策

- コロナ禍における学習活動の工夫と充実を図る。
- 引き続き専門性及び指導力の向上に向け、校内研修の充実、自己研鑽、OJTを進める。
- 保護者との信頼関係を深めるため、情報共有を進めるとともに、本人・保護者の思いを踏まえた指導の充実を図る。
- 地域、関係機関との連携を深め、より一層の情報収集、情報公開等に努める。